

知事と区市町村長との意見交換会(東大和市)

令和2年9月17日(木)

14時50分～15時10分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いいたします。

○**知事** 最近は会議もなかなか対面というのがないんですけれども、久々にこういう形でお目に掛かれて、大変嬉しく思います。

今日はウィズコロナの社会にどうやって生きていくのか。そしてまた構造改革をどう進めるのか。長期ビジョンと長期戦略と、そしてまた来年度の予算関係等々、今コロナに対しまして東京中、オール東京で戦っているところでございますけれども、目の前のコロナの問題から長期の話まで、直接お伺いできればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○**行政部長** それでは尾崎市長、御発言をお願いいたします。

○**東大和市長** 皆さん、こんにちは。東大和の尾崎でございます。本日はこのような機会をいただきまして、誠にありがとうございます。また、小池知事におかれましては、日頃から東大和市政全般、あるいは市政全般に渡りまして御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と社会経済活動の持続のために、御尽力をいただいておりますこと、感謝申し上げます。

それではこれより当市の新型コロナウイルス感染症対策や、今後の市政運営における課題、東京都に望むことにつきまして、お話をさせていただきます。

まず一つ目ということでございます。画面が出てございますけれども、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける財政運営ということで、東大和におきましては、この度の新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな財政需要の増加や税収等の減が見込まれ、今後これまで以上に厳しい財政運営になると予想されます。

これは当市の人口一人当たりの扶助費や経常収支比率の割合を示したものであります。青い棒グラフが当市ですが、いずれも23区平均、多摩26市平均を大幅に上回っており、財政構造上、補助費及び経常収支比率の高さが当市の大きな課題となっております。

次に、今後取り組むべき主な財政課題と負担額としましては、小・中学校を含めた公共施設の老朽化対策として、60年間で1,690億、年平均で28億円が必要となって参ります。また、民間保育園の新設等、都市計画道路や雨水対策等、市の面的整備にも対応していく必要があり、これらが大きな財政負担となって参ります。

次に、新型コロナウイルス感染症の財政運営への影響としまして、まず歳入につきましては、平成20年のリーマンショックの影響を参考に、令和3年度当初予算額を算出しますと、市税の大幅な減収が予想されますが、今回のコロナの影響はそれを上回ると言われております。

次に歳出についてでございますが、生活困窮者の増等に伴う扶助費の増額や、感染症拡大防止に係る経費の増額等が予想されます。

今後、大きな財政課題への対応と、新型コロナウイルス感染症への対応を同時に進めていく必要がある中、東京都におかれましては、当市の今後の財政状況について御理解をいただくとともに、財政運営全般に対する御支援を賜りたいと考えております。

次に発言項目の二つ目といたしまして、新型コロナウイルス感染症対策に関する情報等の共有等についてであります。

まずは東京都の保健所に勤務されている皆様方には、日夜に渡り都民の命と健康を守っていただいていることに対しまして、感謝申し上げたいと思います。

そのうえでまず課題の一点目として、保健所との情報共有等についてであります。現在、保健所を所管している自治体と、そうでない自治体で保有する情報に格差が生じております。東京都から提供される情報の範囲は段階的に広がっておりますが、市において効果的な対応や支援を行うため、市と保健所において必要な情報を共有し、円滑な連携を図ることができるよう、引き続き体制の整備をよろしくお願ひします。

次に課題の二つ目として、医療機関等における一般診療の減収に対する支援についてであります。新型コロナウイルス感染症の影響により、一般診療の減収が深刻化しており、病院等の運営を支援する補助制度を創設していただきたいと考えてございます。

次に課題の三つ目として、市設置のPCRセンターへの支援についてであります。PCRセンターにつきましては、これまで市医師会等、個別に調整を重ね、設置の準備を進めて参りましたが、体制確保のためのコスト等の条件が課題となっております。

東京都におきましても、補助制度の整備を進めていただいておりますが、内容の更なる拡充をお願いします。また、医師等への日額単価につきましても、東京都が東京都医師会と、広域的に調整を行って、統一的な単価設定をお願いできればと思います。

次に発言項目の三つ目として、当市の最重要施策であります、日本一子育てしやすいまちづくりについてであります。

当市におきましては平成27年から日本一子育てしやすいまちづくりを目標に掲げ、子ども子育て支援施策や教育施策に重点的に取り組んでおりますが、今後、更に施策を充実させていくために、待機児童対策や子どもの学力向上を進めていく必要があると考えております。

まず一点目として、待機児童対策についてであります。コロナウイルス感染症から子ども達を守るという新たな課題が発生するなか、保育施設や学童保育所で働く人材の維持、確保をするために待遇の改善に関する財政支援をお願いしたいと、そのように思います。

次の画面をお願いします。これは待機児童の推移であります。これまで棒グラフにありますように、整備を進めて定員の増を図っておりますが、ただ、保育士の不足等によりまして、待機児童が発生している状況でございます。

次の画面をお願いします。課題の二つ目として小・中学生の学力向上ということで、市

の方も力を入れているわけですが、このグラフを見たとおりに、当市の平均正答率につきましては、東京都の中におきましても平均を下回っているという状況でございます。今後このようなことを解消するためにも、ICT教育ということで力を入れていきたいというふうに思いますので、御支援のほどよろしくお願ひしたいと思います。

以上で当市の課題や東京都に望むことについて、ご説明をさせていただきました。これからも広域自治体としての東京都、御支援のほどよろしくお願ひをいたします。ありがとうございました。

○知事 それでは何本か柱で御説明、また御要望いただきました。まずコロナで影響を受けている財政運営ということで御説明がありました。東大和市では窓口業務の一部委託化をされる等、行政改革そしてまた業務の見直しに取り組まれているということについては伺っております。また、市が置かれている状況等を踏まえながら、総合交付金等で地域の実情に応じて適切な支援に努めて参ります。

また、コロナに関係してはいかに情報を共有するかというのが大変大きな課題でございますし、またそれによっての安心、安全ということ、また対策を講じるにも必要だということでもあります。

そこで都民に正しい情報を伝えるという意味でも、またそれぞれ御要望を受けまして、都の保健所の方からの週一の週報、ウィークリーですね、これによる連絡等通じまして、情報提供を行っているところでございます。引き続き、感染状況の把握、そして感染の拡大防止のために情報提供に努めて参ります。

それから同じく感染症の情報共有でありますけれども、これについては国に対しましては医療機関の実情を踏まえた形で、医療機関に対しましての支援策の拡充について要望しているところでございます。

それからPCRセンターでありますけれども、PCRセンターへ市が支援を行う場合の補助の用意をいたしております。これについて活用していただいて、地域の実情に応じたPCRセンターを運営していただきたいと考えております。

続いて多羅尾副知事の方からお答えさせていただきます。

○副知事 個別の財政支援関係は、私の方からお答えさせていただきたいと思ひます。

まず保育士や放課後児童支援員の処遇改善ということでございますけれども、都は保育人材の確保の定着を図るため、国の処遇改善への取組に加えまして、独自にキャリアパスの導入に取り組む事業者への補助を実施しております。

また、市区町村が国の放課後児童支援員を対象とした処遇改善の事業を活用できるように、資質向上研修を今年度から開始いたしまして、支援を始めております。引き続き処遇改善に向けて、市区町村を支援して参りたいと思っております。

それから今度は施設面。継続的な保育施設の整備に関する財政支援でございますけれども、待機児童対策は小池都政の最重要課題として取り組んできたものでございます。保育所等の整備促進を図るため、様々なメニューを用意して支援してきました結果、令和2年4月1日時点の都内待機児童数は2,343人で、2,000人台にまで減ったのは30年振りでご

ございます。今後とも引き続き保育サービスの拡充に取り組む市区町村を支援して参りたいと考えております。

それから学力調査の実施に対してでございます。子供達一人一人がそれぞれの人生を切り開いていく力を身に付けるためには、知識の習得だけではなくて、主体性や課題解決力等を伸ばしていく学びを実現していくことが、極めて重要でございます。そのために都教育委員会といたしましては、都の学力調査について、子供達が学びに向かう力等を把握できるよう、在り方の見直しを図るとともに、国や各地区で実施する調査の結果も併せて活用して、子供達一人一人の個性に着目し、その力を最大限に伸ばすことができるよう支援していくことにしております。以上でございます。

○行政部長 それでは尾崎市長からございますでしょうか。

○東大和市長 いろいろとありがとうございます。私どもの方は先ほど来の要望で、今知事の方からもお話をいただいて、おおいに期待するというか、力強いと感じるところでございます。今後も私どもの方としましても、最初副知事のお話がありました、総合交付金につきましても年々充実させていただいているということで、私ども自治体としては非常に感謝申し上げているところでございます。これから財政的に厳しい状況になっていくのかなというふうに思います。そういった意味では是非総合交付金はこのレベルをキープしていただいて、よろしくお願ひしたいと、そのように思っております。

それから先ほど私どもの方の財政状況厳しいという意味では、扶助費があるということ、これはそれぞれ住んでいる生活の市民の状況によって違うんだろうとは思いますが、経常収支比率が前回来た時もお話させてもらったんですけども、やはり多摩は高いというふうに言われていますし、23区はそう言われてみれば80%にもいかないようなレベルなのかなというふうに思っていますので、是非その辺のところも考慮していただければなと思ったりもしております。

今後ともいろんな面でお力添えをいただくことになるかなと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

○行政部長 どうもありがとうございます。それでは最後に知事からお願いをいたします。

○知事 御苦労様でございます。今、待機児童数見ておりましたら、今年の4月1日では19人ということで出ております。コロナの影響で様々ライフスタイルも変わってきているところでございますし、またそれによって子育ての仕方等も暗中模索の部分もあろうかと思っております。

コロナに対してはとにかく皆さんと情報共有をしっかりと進めながら、検査と対応をしっかりとやっていくということで、市民の皆さんにも安心していただけるような状況。ただこれは市民の御協力あってこそになりますので、そういったことについても是非市からの情報提供、市民に対しての情報提供等、広報等でいろいろ工夫をしていただければというふうに思っております。

少子化対策というのは長期戦略そのものでございます。またいろんな街づくり等もそれ

に合わせた形で進めていく必要があるかと思えます。

都の財政もなかなか厳しゅうございまして、ここはお互いよく理解し合いながら進める必要があるというふうに思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは以上で意見交換を終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。